生きている化石

カブトガニ

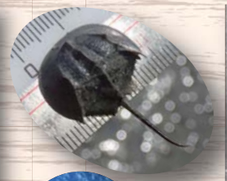
カブトガニは、名前にカニとついていますが、エビやカニなどのなかまではなく、クモに近い動物だと言われています。何百万年も前は、世界中にすんでいましたが、今では北アメリカの東海岸と日本の一部や中国などの東アジア、タイやインドネシアなどの東南アジアの海岸にしかすんでいません。

曽根干潟には、毎年 6 月から 9 月にかけてカブトガニの親が、砂浜に卵をうみに来ます。卵をうみに来る親の数は、曽根干潟が日本で一番多いと言われています。2～3 か月して卵がかえると「幼生」とよばれる赤ちゃんカブトガニになります。けれども、なんと 6 か月ぐらいエサを食べずにじっとしています。次の年の春になると砂浜からドロの多い干潟にうつって、そこで海にすんでいるミミズのなかまのゴカイなどを食べて生活をします。8 年ぐらいしたら大人になって干潟の沖の海でくらすようになります。

ですので、カブトガニがこれからも生き残っていくためには、砂浜とドロの多い干潟の両方がたいせつです。

たまごを うみに来たよ

たまごの大きさは
およそ 3mm



うまれたて

だっぴして大きくなるよ

どろんこ遊び、楽しいね！
でも、おとなの人といっしょに行こうね！

レッドデータブックを知っていますか?

みなさんは、「レッドデータブック」という本を知っていますか？「レッドリスト」という名前の時もあります。

レッドデータブックやレッドリストには、ぜつめつしそうな生き物の名前が書いてあります。ぜつめつしそうになるわけは、水や空気がよごれたり、干潟がうめたてられたりして環境がかわったこと、人間がたくさん取りすぎたことなど、さまざまです。

定量研のメンバーが調べたところ、曽根干潟には右の表に書いた 29 種類のぜつめつしそうな生き物がすんでいました。北九州市という大きな町に近くて、こんなにたくさんのぜつめつしそうな生き物がすんでいる場所があることは、とてもめずらしいことです。

たいせつな生き物が、少しでも早く、数がふえてぜつめつの心配がなくなるように、みなさんも曽根干潟やみなさんのまわりの自然・環境をたいせつにしてください。

No.	グループ	なまえ
1	まきがい	ツボミガイ
2		ヒロクチカノコガイ
3		ヒナユキスズメガイ
4		ワカウラツボ
5		ムシヤドリカワザンショウガイ
6		クリイロカワザンショウガイ
7		フトヘナタリガイ
8		シマヘナタリガイ
9		クロヘナタリガイ
10		ヘナタリガイ
11		カワアイガイ
12		ウミニナ
13		イボウミニナ
14		サキグロタマツメタガイ
15		オカミミガイ
16		ナラビオカミミガイ
17		キヌカツギハマシイノミガイ
18		クリイロコミミガイ
19	ニまいがい	ササゲミミエガイ
20		クチバガイ
21		ウネナシトマヤガイ
22	カブトガニ	カブトガニ
23	カニ	オサガニ
24		シオマネキ
25		ハクセンシオマネキ
26		ベンケイガニ
27		ハマガニ
28		ヒメアシハラガニ
29	魚	トビハゼ

制作:自然環境定量評価研究会（担当：宇野、平山）
メール　info@teiryoken.jp（質問はこちらに）
定量研HP　http://www.teiryoken.jp/（いろいろ おもしろい情報がつまっています）

2016年3月

自然環境定量評価研究会

たいせつな 生き物いっぱい
曽根干潟

曽根干潟は、北九州市小倉南区にあります。干潟とは、海の水が引いたときだけ地面となってあらわれる、すなやドロでできた平らな場所のことです。曽根干潟の大きさは、海の水が引いたときに岸から沖に向かっておよそ 1.7km、南北方向にはおよそ 3km の広さになります。そのめんせきは 517 ヘクタール（福岡ヤフオクドーム丸ごと 74 こ分の広さ）もあります。

曽根干潟は、たくさんの生き物がすんでいるたいせつな場所です。とくに、カブトガニやトビハゼなど全国的に数がへっている生き物が、たくさんいます。

私たち自然環境定量評価研究会は（略して定量研ってよんでね）、干潟がすきな人たちが集まって平成 11 年にできたグループです。このグループで、干潟にすんでいる生き物の種類や量を調べたり、干潟の自然を守るためにはどうしたらよいかを考えたりしています。

この資料では、定量研がしらべた曽根干潟の生き物をかいせつしています。ぜひ、よく読んで干潟はかせになってください。

この冊子は自然環境定量評価研究会が、北九州市港湾局「みなとと海辺の活動支援」を受けて行った「曽根干潟における貴重種の特定と保護・保全活動」の成果の一部です。

陸に近いところ

アカテガニ

大きさ 3 cm

まめちしき

海よりも、どちらかというと、山に住んでいるカニなんだ。こうらのもようをよく見るとスマイルマークが見えてくるんだけど。分かるかな？

ハマガニ

大きさ 5 cm

まめちしき

大きなハサミをもっていて、指をはさまれたらたいへん！気をつけて！でもハマガニはヨシばっかり食べているんだ。こう見えて草食なんです。おどろいた？

オカミミガイ

大きさ 4cm

まめちしき

ヨシの根っこのところや石の下には、どんぐりのようなものが土にうもれてかくれているかも？よくみると、カタツムリのなかまの マキガイなんだ。

マルウズラタマキビ

大きさ 1.5 cm

まめちしき

海の貝なのに水がにがてなへんなやつ。海水がみちてきてもぬれない、高いところのかべや石のすきまによくひっついてるよ。

川がながれているところ

シオマネキ

大きさ 3.5 cm

まめちしき

このカニのオスは、かたほうだけ大きいハサミをしているよ。そのハサミをふりまわしておどるんだ！めったにいないから、曽根干潟で見つけたらラッキー！

トビハゼ

大きさ 10 cm

まめちしき

魚なのに水の中ではなく、岸近くの石や干潟の上でよくみかけます。近づくと、水の上をぴょんぴょんとびはねてにげていくよ。魚とは思えないスゴワザだね！

すながたまっているところ

コメツキガニ

大きさ 1 cm

まめちしき

すなはまで小さなすなだんごをたくさんつくっているのがこのカニ。からだのもようがすなそっくりで、うごきがすばやいから、見つけるのがたいへん。

ハクセンシオマネキ

大きさ 2 cm

まめちしき

すなの上で大きな白いハサミをふりまわしておどっているのがこのカニのオス。そっと近づくと、ハサミおどりが見られるかも？

ヨシ原（ヨシが はえているところ）

アシハラガニ

大きさ 3.5 cm

まめちしき

ヨシ原やそのまわりの干潟にすんでいる大きなカニ。流れ着いた魚やほかのカニ、ヨシの葉っぱなど、なんでも食べるよ。ヨシ原のおそうじ屋さんだね。

クロベンケイガニ

大きさ 4 cm

まめちしき

ヨシ原の中でも、いちばんりくに近いところにすんでいるカニ。りくに近いところの川岸や、畑、田んぼの方にもいるかも。足が毛だらけでごわごわしているよ。

クロヘナタリガイ

大きさ 4 cm

まめちしき

ヨシ原にすんでいるマキガイのなかま。ヨシ原の中の水たまりでよくみかけるよ。名まえのとおり、黒っぽい色をしているよ。

シマヘナタリガイ

大きさ 5 cm

まめちしき

ヨシ原にすんでいるマキガイのなかま。ヨシ原の中の落ち葉や石のすきまでよくみかけるよ。時には、ヨシのくきにぶら下がっておひるねしていることも。

カワザンショウガイ

大きさ 0.8 cm

まめちしき

とても小さなマキガイのなかま。ヨシ原で石や流れてきた木の下、ヨシの根元をよくよくみると黄色いツブツブに見えるこのマキガイがかくれているかも？

ヒロクチカノコガイ

大きさ 1 cm

まめちしき

ヨシ原やそのまわりにすんでいるマキガイのなかま。ドロの上、石や流れてきた木にひっついているよ。大野川には、形がよくにたイシマキガイもいるんだよ。

干潟のどろの上

ヤマトオサガニ

大きさ 4 cm

まめちしき

曽根干潟で一番目立つカニといえばコレ！あたたかいきせつには、曽根干潟のどこを見ても、このカニがワサワサ動いているのを見られるよ！

オサガニ

大きさ 3 cm

まめちしき

ヤマトオサガニのこうらを少し横に長くした感じのカニ。曽根干潟では、海に近いところにすんでいるよ。このカニも干潟の上でワサワサ動いているよ。

チゴガニ

大きさ 1 cm

まめちしき

干潟でドロだんごをつくっているのがこのカニ。小さいカニだけど、オスは白いハサミの両手を高くあげて、バンザイしながらおどっているよ。

マメコブシガニ

大きさ 2 cm

まめちしき

海水がひいたあとにできる水たまりでよくみかけるカニ。カニなのに、なんと前に歩くのがとくい！動きがゆっくりだから見つけやすいよ。でもいじめないでね。

ウミニナ

大きさ 4 cm

まめちしき

曽根干潟ではたくさんいるマキガイのなかま。ドロの上や水たまり、石や流れてきた木など、いろんなところにいるよ。でも、東京の方では少なくなっているんだ。

ヘナタリガイ

大きさ 3 cm

まめちしき

曽根干潟で一番多いマキガイのなかま。からの入口がそとがわにグイっと広がっているからすぐにわかるよ。干潟のドロの上や水たまりなどにいるよ。